



評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市長官公署建築環境総合性能評価システムマニュアル2016 | 使用評価ソフト：CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	打越第5次公営住宅新築工事(F棟)	階数	地上4F
建設地	名古屋市千種区星ヶ丘二丁目50番の一部他	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	24 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年8月 予定	評価の実施日	2021年1月15日
敷地面積	24,370 m ²	作成者	
建築面積	289 m ²	確認日	2021年3月1日
延床面積	962 m ²	確認者	

外観パース等

図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
= BEE1.0 ★:S:★★★★★ A:★★★★ B+:★★★ B-:★★ C:★	☆☆☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆ 80%:☆☆☆☆ 60%:30% 標準計算 このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア= 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.7

項目	スコア
音環境	2.6
温熱環境	3.0
光・視環境	1.8
空気質環境	3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.8

項目	スコア
機能性	2.5
耐用性	3.0
対応性	3.0

Q3 室外環境（敷地内）

Q3のスコア= 3.1

項目	スコア
生物環境	2.0
まちなみ	4.0
地域性・	3.0

LR 環境負荷低減性

LR のスコア= 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.6

項目	スコア
建物外皮の	3.0
自然エネ	2.0
設備システ	4.4
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.1

項目	スコア
水資源	3.0
非再生材料の	3.3
汚染物質	3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.9

項目	スコア
地球温暖化	3.9
地域環境	2.5
周辺環境	2.5

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
良好な都市環境を形成し、緑豊かで潤いのある街並みを維持するよう努める計画とした。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
住戸内装はF☆☆☆☆建材を全面的に使用し、健康で快適な室内環境となるよう努めた。	住宅性能表示規準劣化対策等級3を取得する性能を確保し、更新間隔が長くなる計画とした。	緑化擁壁、植栽などにより緑地率を確保し、自然との調和を図った。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
適切な断熱を施すことにより、外皮の熱負荷抑制に努めた。	コンクリートの一部に高炉セメントを使用するなど、グリーン購入品の活用に配慮した。	団地全体として適宜量の駐車場を設置することにより、周囲の交通負荷抑制に努める計画とした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

打越第5次公営住宅新築工事(F棟)

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.5
LR1	エネルギー	3.6	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.9	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				2.5
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	有	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上			
3. 循環型社会				3.2
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.5



2. 自然共生

評価点 = 2.5



3. 循環型社会

評価点 = 3.2



重点項目のスコアは以下のように算出している。

重点項目スコア = $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。